

であうつながるいのちちがいがおりなす豊かな未来 いま、「協同」が創る2019全国集会 in kanagawa 報告集



2019年11月29日、30日に開催した「いま、協同が創る2019全国集会 in kanagawa」(全体会：神奈川県民ホール：852人、分科会：神奈川大学他：792人)は1987年に静岡県伊東市で開催した全国協同集会から数えて19回目を迎えました。19回にわたる全国協同集会では、各開催地の歴史・文化・実行委員会のメンバーの背景・考えによって集会の特色が出ますが、神奈川集会でも神奈川らしさが強く出た集会であったように考えています。

第1は、江戸の幕末期日本の玄関口として開港した横浜、日本で初めてヘイトスピーチ禁止条例を制定した川崎市、現在の日本の協同組合思想の始祖の一人である二宮尊徳を生んだ小田原市等、神奈川県は多様な文化や人を受け入れ続け、新たな社会制度、仕組みをつくってきた地域である。それは本集会スローガン「ちがいが おりなす 豊かな未来」をつくってきた先進地域ともいえると思います。それが集会の中身でも、

Funiさんによるラップの発表、パネルディスカッションのペイさんがチマチョゴリを着て、在日朝鮮を焦点にした発表は、今までの全国協同集会の演出にはなかった挑戦的な取り組みであったと考えています。そしてその報告は、人として生き続ける上で、社会において一人ひとりの多様性をどのように担保するのかを突きつけた内容であったと思います。

第2は、「かながわ協同組合のつどい」との連携開催をしている点です。協同する1つの主体である協同組合が、協同組合関係の組織だけではなく、NPO・株式会社等とも連携し、「よりよい社会を目指す」ことを日常的に行っていることの力強さを感じました。それはかながわCo-ネットの取り組みでも見られましたが、組織・団体の垣根を越えて多くの分科会でそれを見える化したことは、全国から来た参加者が神奈川県には多くの「協同の文化」が息づいていることを感じる機会になったのではないのでしょうか。

全体会でのパネルディスカッションでいのちに本質を話された加藤彰彦さんのコメントは私のなかで「目から鱗が落ちる」言葉でしたが、全体会・分科会の報告から、「であうつながる いのち」のあり方を読者の皆さん共に考え合うことができればと思います。

分科会報告では、字数が限られるなかで、各執筆者にまとめていただきました。本報告書を作成する過程でも、多くの人の手により協同でつくられたことに感謝を申し上げるとともに、詳細を知りたい方は当日資料がありますので、問い合わせいただければと思います。

相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)